

平成30年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 教授

氏名： 木原 淳

研究課題		1 防衛法制 (1)防衛法制の概説、(2)武力行使に至らない侵害の排除 2 安全保障・防衛行政 最新の国内外の動向を踏まえた諸課題の研究
報告の概要	研究目的及び研究概要	平成30年度個人研究費は、以下に述べるような、研究計画を実行するために使用された。本年度の研究計画は、防衛法制の概説資料の改善及び武力行使に至らない侵害の排除に関する関連資料の取得・調査並びに最新の国際情勢等を踏まえた安全保障及び防衛に関する議論のフォローと関連資料の収集・整理であった。このような研究活動を行う背景としては、まず、学生に対して実施し得る教育の内容に還元し得る研究内容の充実と改善を図る意図があった。また、平成27年度に整備された平和安全法制整備の妥当性を担保する国内外の法社会学的な前提条件を明らかにすることで、新たな法制上のイノベーションの考慮が必要となる国内外の情勢変化の評価基準を設定し得るのではないかという問題意識が存在した。
	研究成果	「個人研究費」を用いた今年度の研究成果と、次年度に対する反省点を以下、簡潔に述べる。まず研究成果としては、2018年度地区防災計画学会・日本大学危機管理学部共同シンポジウムにおける発表『防衛法制からみた災害予防・応急・復興活動における中央行政と地域コミュニティの協調』を挙げることができる。この発表は、平成26年2月東日本大雪における公助部門の対応とりわけ市町村と都道府県の間での自衛隊の災害派遣要請をめぐる調整上の課題を指摘し、地区防災組織における共助・自助の重要性を裏付けるものとなった。 反省点としては、校務に対するエフォートが増加したことから学術研究の著作執筆時間をとることができず、一昨年と昨年に実施した紀要への投稿ができなかったことである。今年度の資料収集の成果を踏まえて、次年度は原稿執筆に積極的にかかわりたいと考えている。
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	「なし」
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	「なし」
	・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等	シンポジウム：木原 淳『防衛法制からみた災害予防・応急・復興活動における中央行政と地域コミュニティの協調』、2018年度地区防災計画学会・日本大学危機管理学部共同シンポジウム「西日本豪雨等の教訓と地域防災力・災害復興活動」、2018年12月1日、日本大学三軒茶屋キャンパス